雑学書庫 知識の記録

論文数と被引用数を一つの数字にまとめる、h指数

記事のURL

https://www.gklibrarykor.com/ja/article/13389/

PDFレイアウトのプレビュー - 本文の一部のみ

研究者が二人いるとしましょう。一人は論文を100本出したものの、ほとんど引用されていません。もう一人は論文が10本だけですが、どれも着実に引用されています。論文数だけを数えれば前者が上で、被引用数だけを足せば、一、二本の代表作が全体を押し上げて実像が隠れかねません。この二つを一度に盛り込んで一つの数字で表そうとする試みが、h指数です。 h指数（h-index）とは、かんたんに言えば「h回以上引用された論文がh本以上あるときの、最大のh」のことです。2005年に物理学者のホルヘ・ハーシュ（Jorge E. Hirsch）が米国科学アカデミー紀要（PNAS）で発表しました。提案者の姓にちなんでハーシュ指数（Hirsch index）とも呼ばれます。計算が単純なのですぐに広まり、今も研究者の紹介の場でよく目にします。 この記事では、h指数の計算方法から、この数字が表す意味と長所、分野やキャリアによる限界、そしてそれを補う派生指標と正しい読み方までを順に整理します。 論文数と被引用数をあわせて表す数字 h指数はどう計算するのか？ 手順は簡単です。一人の研究者の論文を、引用の多い順に並べ、先頭から番号を振ります。そして「被引用数が番号を下回る最初の地点」のすぐ手前の番号が、h指数です。 （1）例で計算してみる論文5本の被引用数が、多い順に10、8、5、4、3回だとします。4番目の論文は被引用